

指導方法等の改善計画

広島市立矢野中学校

[◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇:全国学力・学習状況調査]

<国語>

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率

本校	69.5%
県	73.6%

通過率 30%未
本校 1.6%
県 1.3%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題	本校 79.0%	全国 75.8%	県 76.5%
B問題	本校 69.5%	全国 66.8%	県 67.0%

重点課題

◎「書くこと」の領域が、県平均 55.4%に対して本校は 49.0%で、課題がある。特に、根拠や伝えたい事実を明確にした記述をすることの正答率が低い。(通過率 14.2%) また、登場人物の心情を把握したり、主語・述語の関係を把握する問題の正答率も低い。

◇「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」内容を問う問題の正答率が低い。(通過率 59.8%) 加えて、「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」内容を問う問題の正答率も低い。(通過率 31.9%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

◎説明的文章の学習で、意見と理由を明確にする読み取りをさせる。併せて、作文を書く際には、根拠を明確にして書くように意識させた指導を行う。文学作品の読み取りの際には、多様な意見が出るようにグループ学習を利用する。

◇授業の中で、一つ一つの語句を注視させ、意味を考えさせる時間を設ける。併せて、それをういた短文作りなどを行う。読み取り学習においては、自力では難しい生徒もいるのでペア及びグループ交流を通じて読み取りのスキルを身に付けさせる。それを基に自分の考えが書けるように、単元毎に学習内容を踏まえた条件作文や課題作文を課すようにする。

<数学>

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率

本校	68.6%
県	70.4%

通過率 30%未満
本校 5.6%
県 5.5%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題	本校 65.5%	全国 64.4%	県 64.6%
B問題	本校 45.1%	全国 41.6%	県 42.7%

重点課題

◎関数の領域ができていない。グラフ上の点(通過率 48.0%、県通過率 56.8%) 比例のグラフの理解(通過率 30.3%、県通過率 40.3%)、問題解決の方法(通過率 37.4%、県通過率 37.4%)

◇一次式の減法の計算ができていない。(通過率 78.0%、県通過率 83.2%)

◇空間における直線と平面の垂直について理解していない。(通過率 49.6%、県通過率 56.0%)

◇事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができていない。(通過率 9.8%、県通過率 13.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

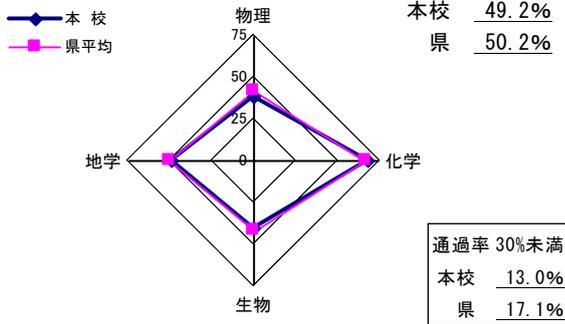
◎特に関数領域について、既習事項の振り返りを繰り返すことで、基礎的・基本的な用語の意味の理解や式・表・グラフの関係を理解させ、数学的な言葉での表現し説明できるよう、ペア学習やグループ活動などの場面を増やしていく。

◇毎時間、1,2年生の復習の時間を取り入れ、基本的な計算問題が解けるようにする。

◇少人数活動を取り入れ、数学的な表現を用いて、説明する場面を増やす。

<理科>

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率

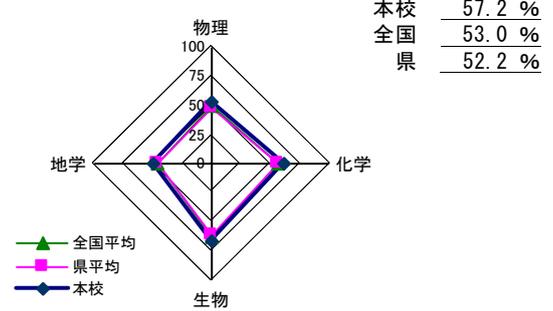


重点課題

◎問題 6 (3) 圧力に関する身近な現象について理解ができていない生徒が多い。(通過率 11.4%)
決められた言葉を使って説明することができず、記述式の問題、理科の知識を使用して考えを表現することを苦手としており、さらに学習した内容と日常生活との結びつきも弱い。

◇問題 2 (3) 雲のできかたについて理解ができていない。エを選択できている生徒が少ないことから、水(水滴)と水蒸気の状態変化について、具体的な様子をイメージできておらず、雲は水蒸気であるという表現に疑問を持たなかったのではないかと考えられる。(通過率 20.5%)

全国学力・学習状況調査 本年度正答率



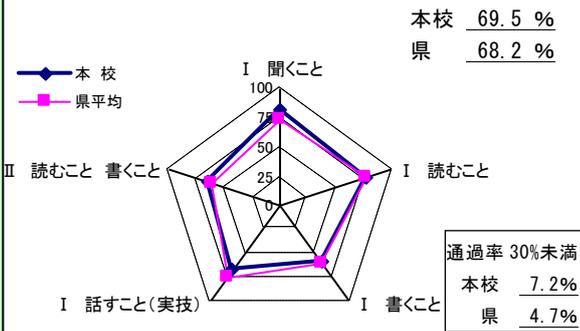
重点課題に対応した改善指導内容及び方法

◎観察や実験などを通して理解した知識を自分の言葉でまとめて、小グループなどで発表する機会を多く設けるとともに、理解した知識と日常の自然現象とを結びつける取り組みを行う。

◇水の 3 態の様子を実際に観察することで、雲が水蒸気ではなく水滴や氷の粒であることを確認する。さらに、3 年物質の分野のイオンを扱う部分で、水や水の中に含まれるイオンなどの粒子をモデル化して考察させるなど、粒子概念を持たす事ができるような活動を繰り返し行う。

<英語>

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率



重点課題

◎「書くこと」において、「基本的なきまりを理解した作文」の中で、疑問詞＋名詞の形を含む英文の正答率が低い。(通過率 34.4%)

◎「読むこと・書くこと」において、「まとまりのある一貫した英語の文章を書く」ことができる生徒の割合が低い。(通過率 41.9%、無回答 17.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

◎毎授業の帯時間を利用して、簡単な 1 問 1 答式の Q & A を慣れるまで行う。その中に、疑問詞＋名詞の形を含む英文を多く取り入れる。

◎まずは、英文を「読む」力をつける。教科書の本文の読解を行う際に、英語が苦手な生徒も参加できるように、スモールステップで考えることができるような活動を準備し、大まかに意味をとる練習を取り入れる。また「書く」活動では「まとまりのある英文」を書くために、単純な羅列ではなく、接続詞を用いることを取り入れていく。

生活・学習の授業方法の改善計画

(「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査、全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査)

(1) 生活・学習

	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容
基礎・基本	物事を解決するとき、多分こうではないかと予想している生徒は 77.6%いるが、物事を解決するための情報を集める方法を考える生徒は 34.3%と低い。	◎論理的思考過程が課題である。自分の考えを发表或し合ったりする活動を充実させることで、課題を解決する力を高めていく。
全国	原稿用紙 2, 3 枚の文章を書くことが苦手な生徒が 71.0%、自分の考えを説明したり書いたりすることが難しいと考えている生徒が 63.9%、新聞をほとんど読まない生徒が 53.3%と言語活動や読解力に関する質問の肯定的な回答率が低い。	◇教科や言語・数理運用科の授業において、新聞を活用したり、自分の考えの発表や話し合ったりする活動を充実させ、コミュニケーションをとり、言語を活用する力を高めていく。

(2) 教科

		生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	基礎・基本	「授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしているか」という問いに対して「あてはまらない」と答えた生徒が 44.5%いる。	◎授業の中で学んだことが活かされる場面を設定したり、国語の授業以外の場面で、授業で触れた内容について話す機会を増やす。
	全国	「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」という問いに対して、「先生に尋ねる」及び「友達に聞く」ことができている生徒は 59.6%という低い結果であった。	◇授業の中で、「分からなかった部分」について語り合える場を設けることが必要であると考える。よって、授業の最後に、理解度を確認する場面を用意し、加えて、ノート等の点検時においても理解度を確認し、助言していくようにする。
数学	基礎・基本	「解き方や考え方を話し合うときに理由をあげています」にあてはまる回答が 52.4%と最も低い数字となり、自分の考えを表現したり説明したりすることが苦手な生徒が多い。	◎問題演習などでこれまで学んだことを活用し、理由をあげることができるような発問を工夫し、理由をあげて説明をする場面を増やす。
	全国	「数学の授業で学習したことを普通の生活の中で活用できないか考えますか。」に当てはまる項目が 54.1%と他の質問項目と比べると低い数字となり、日常に数学で学習したことは生かしていない生徒が多い。	◇日常生活と関連付けた事象を課題とし、数学的な思考力・判断力で課題解決をしていき、説明をする場面を増やしていく。
理科	基礎・基本	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」にあてはまる回答が 47.2%と最も低い数字となり、自分の考えを表現することを苦手としている生徒が多い。	◎小グループなどを活用して、観察や実験の結果を考察する場面や思考を要する内容において、思考したり発表したりする機会を多く設ける。
	全国	「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか」という質問に対し、肯定的評価が 51.4%と低い。	◇実験の考察や学習した内容を理科の用語を使い、文章や図を用いて説明する課題を設定したり、全体で発表させて表現させたりする活動の機会をつくる。
英語	基礎・基本	「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」という質問に対する肯定的評価が 55.5%と低い。	基本的なドリルに多く時間を割くことを控え、最後に個人の意見を書いたり、小グループで話したりする時間を意識的にとるようにする。

